



1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
榊田 稟	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
日藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
横山 友之	楽器ビジネス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれかに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(10月、3月)

(開催日時)

第1回 平成30年10月25日

第2回 平成31年3月14日 / 平成31年3月15日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:授業だけでは到達出来るレベルに限度があります。学生自身が練習・演習できる環境が必要です。特にパソコンを所有し活用できる者と、そうでない者では大きな開きが出ます。より良い環境を整えることができれば業界のニーズと更に合致しているはず。活用状況:「音楽業界概論」のカリキュラムにパソコンを活用する内容を追加。ビジネス系のアプリケーションだけでなく、MIDIや録音機能を持つアプリケーションを使用、作曲にも触れたいよう計画している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後編試験の実施、作品・実習等における発表、出席等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 ・2018年11月12日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「Dave Grusin」  
 ・2018年11月14日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Larry Carlton」  
 ・2019年11月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Naturally 7」  
 内容: 質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 ・2019年3月26日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員69名参加  
 内容: 今時の学生とのコミュニケーション研修会

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 ・2019年5月13日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「Danny Kortchmar, Waddy Wachtel, Leland Sklar, Russ Kunkel & Steve Postell」  
 ・2019年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加  
 ・2019年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加  
 ・2020年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加  
 内容: 質の良いベーシックな音楽、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 ・2020年3月24日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加  
 内容: コミュニケーションスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議をいただいている。新設の設備品については「時代背景を考慮した新しさは必要であるが、学びの場である以上本質的な作業工程の意味合いを理解しやすく、汎用性を兼ね備えたものを選択の基準とすることが望ましい」との意見を頂く。また、業界での就職においてはPC操作スキルが望まれているので、環境の整備を継続するよう進言があった。Office系Draw系授業のPC入れ替えを検討し、新年度に向けて入れ替えを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種類の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ)  
 ホームページにおいて公開(URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>)・令和元年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的にやっていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。  
 (3) 情報提供方法  
 ホームページにおいて公開(URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>)

授業科目等の概要

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	124	8	○				○			
○			音響工学	音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。	1・2年 通年	124	8	○						○	
○			音響実習	音響機器の設営、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。	1・2年 通年	372	12			○	○			○	
○			照明実習	照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。	1年 通年	124	4			○	○				○
○			演奏技術	歌唱・演奏技術に関する基礎的な反復練習を行い、無理なく実際の演奏に応用できる技術を養います。演奏するための持久力や安定性を高め、読譜や発想にも力を付けていく内容です。	1・2年 通年	248	8			○	○				○
○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	248	8			○	○				○
○			音楽理論	基礎的な音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。楽典的なものから読譜力や音程・和音や旋律の知識を習得して楽曲に対する理解を広げていきます。	1・2年 通年	124	8	○						○	
○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。	1年 通年	62	4	○							○
○			パソコン演習	DAWソフトを使用しMIDI打ち込み、MIDI音源使用方法、HDレコーディング、エフェクト、オーディオデータ編集等コンピューターベースでの操作方法、ノウハウを学びコンポーザーとして作曲に役立てる知識を学びます。	2年 通年	62	4		○						○
○			照明実習	照明器具の取り扱いや、調光操作卓の操作方法や照明プランや仕込みを学びます。仮設照明で必要となってくるイントレ、トラスなどのセッティング方法や仮設電源の取り方も学びます。	2年 通年	124	4			○	○				○
○			レコーディング実習	自分たちの演奏を録音、作品として仕上げるというバンドの原盤制作的な内容で授業が行われ、ProToolsを使用したレコーディングのノウハウを学びます。	2年 通年	124	4			○	○				○
○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	64	2			○	○				○
○			業界研究	イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んでいきます。また、演奏に関しては、高い技術力を持った演奏を研究する機会もあります。	1・2年 通年	84	2			○	○				○
合計					12科目		1760単位時間(72単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期16週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
日藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
横山 友之	楽器ビジネス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれかに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(10月、3月)

(開催日時)

第1回 平成30年10月25日

第2回 平成31年3月14日 / 平成31年3月15日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:授業だけでは到達出来るレベルに限度があります。学生自身が練習・演習できる環境が必要です。特にパソコンを所有し活用できる者と、そうでない者では大きな開きが出ます。より良い環境を整えることができれば業界のニーズと更に合致していけるはず。活用状況:専攻の方向性を制作系へ近づけている。パソコンの所有を推奨、「企画制作」授業に個人所有のノートパソコンを持ち込む学生が増えている。教室の環境は順次整えていく計画を立て進めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・講師派遣における学内授業の実施  
・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣  
・制作実習の実施、作曲・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
照明実習	照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。	株式会社ミス・ユー
照明実習Ⅱ	照明器具の取り扱いや、調光操作卓の操作方法や照明プランや仕込みを学びます。仮設照明で必要となってくるイントレ、トラスなどのセッティング方法や仮設電源の取り方も学びます。	株式会社ミス・ユー

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p> <p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろんだが、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。</p> <p>(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 *2018年7月19日 関西舞台テレビテクノ&amp;アート共同組合 音響指導教員2名、イベント制作指導教員1名参加 内容:コンサートイベントで用いるイントレ(足場)組立て作業に係る特別教育講習 *2018年8月16日～19日 SUMER SONIC2018 イベント制作指導教員3名参加 内容:国内最大級の音楽フェスのステージ設置・運営に研修的に参加。 *2018年12月6日 芸術鑑賞 宝塚歌劇「ファンタム」音響指導教員1名 内容:国内最高級の音響・照明・舞台設備を駆使した公演を観覧、最新の技術、演出に触れる。 *2019年2月25日 株式会社ハートス 照明指導教員1名参加 内容:最新機材や現場で主流となる照明機材について、演出効果や仕組み方のレクチャーを受ける。 ② 指導力の修得・向上のための研修等 *2019年3月26日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員69名参加 内容:今時の学生とのコミュニケーション研修会</p> <p>(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 *2019年5月22日～23日 テレビ大阪/アジア太平洋トレードセンター/大阪南港ATCセンター主催 イベントツールウェストジャパン2019 教員2名参加 内容:イベント企画・集客コンテンツ・販促のノウハウを学ぶ *2019年7月5日 株式会社スステック オーディオ 音響指導教員3名参加 内容:コンサートPAで使用されるフライングスピーカー設置方法の特別レクチャー *2019年8月14日～18日 SUMER SONIC2019 教員8名参加 内容:国内最大級の音楽フェスのステージ設置・運営に研修的に参加。 *2019年9月 関西舞台テレビテクノ&amp;アート共同組合 教員3名参加 内容:フルハース型の壁落禁止用器具を用いる作業の業務に係る特別教育 *2019年12月 芸術鑑賞 宝塚歌劇 音響指導教員1名 内容:国内最高級の音響・照明・舞台設備を駆使した公演を観覧、最新の技術、演出に触れる。 ② 指導力の修得・向上のための研修等 *2020年3月24日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加 内容:コミュニケーションスキル教員研修会</p>																																																	
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p> <p>(1) 学校関係者評価の基本方針 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。</p> <p>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1) 教育理念・目標</td><td>教育理念・目標</td></tr> <tr><td>(2) 学校運営</td><td>学校運営</td></tr> <tr><td>(3) 教育活動</td><td>教育活動</td></tr> <tr><td>(4) 学修成果</td><td>学修成果</td></tr> <tr><td>(5) 学生支援</td><td>学生支援</td></tr> <tr><td>(6) 教育環境</td><td>教育環境</td></tr> <tr><td>(7) 学生の受け入れ募集</td><td>学生の受け入れ募集</td></tr> <tr><td>(8) 財務</td><td>財務</td></tr> <tr><td>(9) 法令等の遵守</td><td>法令等の遵守</td></tr> <tr><td>(10) 社会貢献・地域貢献</td><td>社会貢献・地域貢献</td></tr> <tr><td>(11) 国際交流</td><td>※該当なし</td></tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 学校関係者評価結果の活用状況 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議をいただいている。新設の設備品目については時代背景を考慮した新しさは必要であるが、学びの場である以上本質的な作業工程の意味合いを理解しやすく、汎用性を兼ね備えたものを選択の基準とすることが望ましいとの意見を頂く。また、業界での就職においてはPC操作スキルが望まれているので、環境の整備を継続するよう進言があった。Office系 Draw系授業のPC入れ替えを検討し、新年度に向けて入れ替えを行っている。</p> <p>(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">平成31年3月31日現在</th> </tr> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三原 淑治</td> <td>エム・アイ・フランニング株式会社 代表取締役</td> <td>平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)</td> <td>企業等委員</td> </tr> <tr> <td>東 龍太郎</td> <td>科学技術学園高等学校 大阪分室長</td> <td>平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)</td> <td>校長等</td> </tr> <tr> <td>高橋 国明</td> <td>第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)</td> <td>平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)</td> <td>卒業生</td> </tr> <tr> <td>瀧川 紀征</td> <td>株式会社リパフォーラ 代表取締役会長</td> <td>平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)</td> <td>企業等委員</td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等</p> <p>(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ) ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)・令和元年10月末</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	教育理念・目標	(2) 学校運営	学校運営	(3) 教育活動	教育活動	(4) 学修成果	学修成果	(5) 学生支援	学生支援	(6) 教育環境	教育環境	(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集	(8) 財務	財務	(9) 法令等の遵守	法令等の遵守	(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献	(11) 国際交流	※該当なし	平成31年3月31日現在				名前	所属	任期	種別	三原 淑治	エム・アイ・フランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員	東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等	高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生	瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																																																
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標																																																
(2) 学校運営	学校運営																																																
(3) 教育活動	教育活動																																																
(4) 学修成果	学修成果																																																
(5) 学生支援	学生支援																																																
(6) 教育環境	教育環境																																																
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集																																																
(8) 財務	財務																																																
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守																																																
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献																																																
(11) 国際交流	※該当なし																																																
平成31年3月31日現在																																																	
名前	所属	任期	種別																																														
三原 淑治	エム・アイ・フランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員																																														
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等																																														
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生																																														
瀧川 紀征	株式会社リパフォーラ 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員																																														
<p>5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係</p> <p>(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。</p> <p>(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの項目</th> <th>学校が設定する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1) 学校の概要、目標及び計画</td><td>学校概要、教育理念、教育目標</td></tr> <tr><td>(2) 各学科等の教育</td><td>各専攻カリキュラム概要</td></tr> <tr><td>(3) 教職員</td><td>講師、特別講師</td></tr> <tr><td>(4) キャリア教育・実践的職業教育</td><td>産学協働特別授業、企業の声</td></tr> <tr><td>(5) 様々な教育活動・教育環境</td><td>日常トピックス、行事レポートの公表</td></tr> <tr><td>(6) 学生の生活支援</td><td>※該当なし</td></tr> <tr><td>(7) 学生納付金・修学支援</td><td>募集要項、教育ローンの案内</td></tr> <tr><td>(8) 学校の財務</td><td>学校の財務</td></tr> <tr><td>(9) 学校評価</td><td>自己評価、学校関係者評価</td></tr> <tr><td>(10) 国際連携の状況</td><td>※該当なし</td></tr> <tr><td>(11) その他</td><td>※該当なし</td></tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p> <p>(3) 情報提供方法 ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)</p>		ガイドラインの項目	学校が設定する項目	(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標	(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要	(3) 教職員	講師、特別講師	(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声	(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表	(6) 学生の生活支援	※該当なし	(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内	(8) 学校の財務	学校の財務	(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価	(10) 国際連携の状況	※該当なし	(11) その他	※該当なし																								
ガイドラインの項目	学校が設定する項目																																																
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標																																																
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要																																																
(3) 教職員	講師、特別講師																																																
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声																																																
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表																																																
(6) 学生の生活支援	※該当なし																																																
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内																																																
(8) 学校の財務	学校の財務																																																
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価																																																
(10) 国際連携の状況	※該当なし																																																
(11) その他	※該当なし																																																

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 総合スタッフ専攻)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2 年 通 年	124	8	○			○					
○			音響工学	音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。またデジタルコンソールやレコーディングに関する基礎知識を学び、実際の現場で使える生きた知識を習得します。	1・2 年 通 年	124	8	○			○					
○			音響実習	音響機器の設営、操作やホール規模のPAの仕込み、チューニングなど実習します。またミキシングは1人1台のデジタルコンソールを使用し、音作りやバランス、エフェクター操作を学びます。	1・2 年 通 年	372	12				○	○				
○			照明実習	照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。	1 年 通 年	124	4				○	○			○	○
○			企画制作	ライブイベントの企画制作をする実習です。校内の様々な施設を使い、ライブイベントを実施することにより、総合スタッフで学ぶ照明・音響・映像各分野の連携を理解することが出来ます。	1・2 年 通 年	124	4				○	○			○	
○			映像制作	映像の企画・撮影・編集を学習します。企画書・絵コンテ作成・スケジュール管理などの制作進行や構図、カメラ操作、静止画素材の加工、動画編集ソフトの操作、カット割り等知識を身につけます。	1・2 年 通 年	248	8				○	○			○	
○			照明実習Ⅱ	照明器具の取り扱いや、調光操作卓の操作方法や照明プランや仕込みを学びます。仮設照明で必要となってくるイントレ、トラスなどのセッティング方法や仮設電源の取り方も学びます。	2 年 通 年	124	4				○	○			○	○
○			照明工学	舞台用語や歴史、直流・交流電流などの電気的な知識を学びます。その他、調光操作卓の仕組み、電子工学について知ることで、実習など実技作業の学びが定着するようになります。	1・2 年 通 年	124	8	○			○				○	
○			パソコン演習	パソコンを使用し、ビジネスソフトの使用法を学びます。様々な書式、表やグラフの作成、プレゼンテーションの資料などを制作します。また、DTPでは業界標準のIllustratorやPhotoshopの基本操作を学びます。	1・2 年 通 年	124	8				○	○			○	
○			一般教養	社会人としての一般教養を学びます。挨拶や敬語、電話応対、名刺交換などのビジネスマナーや、履歴書の書き方や面接など就職に役立つスキルを学習します。	1・2 年 通 年	124	8				○	○			○	
○			イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2 年 通 年	64	2				○	○			○	
○			業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得も率先して取り組んでいきます。	1・2 年 通 年	84	2				○	○			○	
合計				12科目				1760単位時間(76単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週、後期15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。